

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600367		
法人名	社会福祉法人ふるさと		
事業所名	認知症対応型共同生活介護ふるさと(1階)		
所在地	帯広市西20条南3丁目6番22		
自己評価作成日	2017/02/15	評価結果市町村受理日	平成29年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=0194600367-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、平成27年3月に開設し2年が経ちました。閑静な住宅街に立地し、四季、陽気、ご要望に応じ、散歩やドライブ、買い物、行事への参加、野菜作りなど、利用者の皆様が自然な暮らしの中で、楽しみを持ち、「安全・安心・笑顔」でお暮し頂ける様、また、ご家族の皆様にも同様に感じて頂ければと、スタッフ一同務めております。
地域の皆様とは、当ホームの多目的ホールや会館にて、福祉やグループホームの役割りなどをお話しする機会が出来たり、当町内子供会の皆さんとのふれあいの場を設けて頂くなど、積極的に取り組んでおります。今後も、地域や関係者の皆様のご協力を頂きながら、進めて参りたいと思います。
法人としては、職員の育成、「学び、成長する介護集団」を目指し、法人内收の研修は勿論、他職種の方々ともお話しさせて頂く機会を多くもち、日々、利用者の皆様、ご家族に質の良いケアを提供出来ませす様取り組んでおります。
毎日、笑顔や笑い声あふれる「ふるさと」であります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスセンター、認知症対応型デイサービス、小規模多機能ホーム等を運営する社会福祉法人の中核をなす木造2階建て2ユニット(定員:18名)の開設2年目のグループホームです。
一人ひとりの力や生活歴を活かしながら「ふるさと菜園」で野菜作りや収穫を楽しんで職員と一緒に調理や食事を楽しんだり、散歩や買い物、紅葉狩りやドライブ、図書館に出かけるなど戸外に出かけて気分転換や楽しみごとへの支援をしている。
また、町内会の福祉学習会に講師を努めて協力したり、地元中学校生徒の体験学習の受け入れや歌謡、カラオケなど地域ボランティアの協力を得る等で事業所の持つ専門性を活かした地域貢献や地域の人々との交流・連携に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたグループホームを目指し、内部研修において学びを行っている。又、理念を玄関ホールに掲示し、職員のみならず来訪したご家族の目にも触れる様に周知、啓蒙を行っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を見やすい場所に掲示して、内部研修会開催や全体会議等で話し合い、その理念を共有して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会夏祭りのちびっこ神輿は、継続して施設前に来て頂き、子供達と利用者の交流が持てている。花を届けに来て下さる方や、散歩時にはにこやかに挨拶を交わす事が出来ている。今後も地域の活動に、積極的に参加していきたい。	町内会の福祉学習会に講師を努めて協力したり、地元中学校生徒の体験学習の受け入れや歌謡、カラオケなど地域ボランティアの協力を得る等で事業所の持つ専門性を活かした地域貢献や地域の人々との交流・連携に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民を含む団体の方々に、我々の持つ専門性や認知症の理解において講演、地元中学生の職場体験の受け入れを継続している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議全体において文章報告だけでなく、写真なども使い、日常生活を見て感じて頂いている。意見や要望においては全体会議などで報告、検討し、サービスの質向上を目指し取り組んでいる。	定期的に運営推進会議を開催して、地域とのかかわりや感染症対策、事業所の運営状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケア内容の確認や各種報告を通して、その都度連絡をさせて頂き、助言や指導を頂いている。	市担当者との連携の重要性を認識し、日常業務を通じて相談や助言等を得ながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケア、利用者の自由な生活を確保できる様に取り組んでいる。法人内、外の研修において学び、職員の理解、共有に努めている。	不適切なケアや事例研究等の内部研修会開催で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内、外の研修において学び、職員間の理解を深めている。特にグレーゾーンにおいて認識を持ち、常に自分自身に問いかける様伝え、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は社会福祉士、ケアマネとしての業務経験が長く、制度の利用経験がある。権利擁護に関する研修を行いたいが、中々実行できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、契約時等の際は、不安や疑問点等を伺い、安心、理解、納得頂ける様努めている。又、契約内容変更時には、文章の発送や説明の機会を設け、対応を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた時や、電話や電子メールを積極的に利用して、利用者様の状況を報告するほか、ご家族からも意見や要望を伺う仕組み作りを行っている。	本人・家族等が外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の第三者機関への申し出先を明示している。また、来訪時に意見や要望等を言い表す機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の打合せや「職員会議・スタッフ全体会議」という会合を通じて、職員の意見や提案を聞く他、現場と事務室の「風通し」を良くして、スタッフが物を言いやすい職場作りを意識している。	個人面談や日常業務を通じて、職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見や提案等を運営に反映できるよう努めている。また、虐待防止や不適切なケア、緩和ケア、腰痛予防、事例研究など法人内外の研修の機会を確保している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談を実施し、職員の仕事に関する思いや悩み、不安や要望、受けた研修などと言った細かい内容についても、確認している。代表者には、管理者から必要な職員個々の情報提供を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人は、研修制度が充実しており、職員のレベルに応じた研修プログラムに基づき、必要な研修を行っている。又、外部研修にも参加し、働きながら多様な知識を得る事が出来る様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他ホームの管理者の方にお越し頂きアドバイスを頂いたり、グループホーム協会に加入し、研修会等に職員が参加し、同業者との交流、学びにてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学、若しくは入居相談時より、馴染みの関係を構築するように努め、入居前より利用者の心のうちを出来る限り多く聞きだし、入居後に安心して過ごして頂ける様職員や他の利用者様との関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	前項同様、関係性を構築し、利用者様、ご家族が何を望んでいるのか、出来るだけ「本心」の意向を聞き出せる様に努め、利用開始に向けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に迷っているご家族には、これまでの経験から、身近で具体的な実例で説明したり、状況によっては、在宅でのサービスを提案する等、「入居ありき」ではない、臨機応変な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員が、一緒に出来る事を見つけ、又、自主的にされる事の日々の暮らし(日常生活)の中で、感謝の言葉や挨拶、笑顔において、親密な関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には積極的に施設内の行事(誕生会など)への参加の呼びかけを行っている。ホームでの何気ない仕草や笑顔を写真に撮ってご家族に送信したり、「歌う事が出来た」「こんな冗談を」等、ご家族と共に分かち合える様、細やかに報告し関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ病院、スーパーでの買い物、移動図書館などへ出向く事、又、ご家族、友人や知人の面会に感謝し、馴染みの関係が途切れる事のないよう支援を行っている。	町内会の夏祭り参加や紅葉狩り、買い物や中学生との交流などで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格や感情の変化を理解した上で、コミュニケーションがとれるよう仲立ちや声掛け、見守りをし、利用者様同士が関り支え合える関係が持てる様、支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了された利用者のお宅にお花や手紙、又入院された方への面会等を通し、可能な限りご本人、ご家族との関係性を継続できる様努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からお話をお聞きし、モニタリングの中で本人の思い、希望、意向をお伺いし、又、ホームでの関わりを通じ、職員間で情報を共有して、ご本人の思いや意向に添えるよう努めている。	一人ひとりの生活歴や暮らし方の希望を日常の会話の中やモニタリングで把握し、職員間で情報を共有して、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで、ご本人及びご家族から詳細な情報を得たり、利用していたサービス提供事業所や病院等からも情報を提供して頂き、入居後も引き続き変わらぬ生活が継続できる様な支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活スタイルをベースとして現在の生活スタイル、嗜好、残存能力等をホームにおいて、実際にスタッフが日々関る中で五感を働かせて情報を追加収集し、それを記録や伝達などを通じてスタッフが共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、関係者様とは面会時や受診前後など意向確認や情報交換の行っている。月に一度カンファレンスを行い、現在のケア内容が適切なものかどうか、現在の情報も職員より収集し話し合い、支援に努めている。	本人・家族の意見や要望、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の生活状況は、ケア記録に記載し、状態変化の把握や職員間の情報共有に繋がっている。又、気が付いた点があれば、その都度話し合いをもち、プランの見直しやより良いケアの提供に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族と相談を密にしながら、その時々ニーズを把握し、職員が柔軟に適切な支援を行えるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、地域包括支援センター職員、町内会会長、福祉用具職員に就いて頂いている。今後も、町内や地域、各関係機関との交流、又ご支援、ご協力を頂ける様努めていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診については、ご家族に依頼している。必要に応じて、診察室まで同行させて頂き、主治医とホームでの様子や病気に対しての適切な対応方法等を確認するなど、関係性を築いている。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、日常の健康管理や通院への支援等で適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が、週2単位で利用者の体調管理を行っている。症状の確認や体調変動についての報告や相談等を職員と一緒にしている。それ以外にも、電話や電子媒体を利用して連絡を密にし、疾病の早期発見、早期対応・治療に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携は非常に良好。入院時にも積極的に見舞いに出向き、医師や看護師、ご家族と情報交換を行い、ご本人、又、ご家族が安心して治療を受ける事ができる様支援に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	今後、重度化して行く事も考えられる際、早い段階で主治医、ご家族、看護師、ホーム職員で話し合いを持ち、事業所として出来る事、今後の方針を共有し支援を行い、都度報告し、指示等を頂きながら取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所ですることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内、外の研修において、心肺蘇生法、AED使用法の講義・演習、緊急時の対応についても学んでいる。今後も、研修へ積極的に参加できる様取り組んでいく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知通報システムについて、全職員が使い方を学んでいる。又、消防の方の協力を得て、避難訓練も行っている。	昼夜を想定した避難訓練を消防署や地域の協力を得ながら実施している。また、心肺蘇生やAEDの使用法の内部・外部の講習会に参加している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ馴れしい言動とならないように常に人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に十分注意している。	不適切なケアや事例研究等の内部研修会開催で一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を通してご本人の希望をお聞きしたり、思いを表す事の難しい方においては、ちょっとしたサインも見逃さず対応し、自己決定が出来る様に雰囲気作り等に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その方がどの様に過ごしたいのか、日々の体調面、精神状態等も配慮し、笑顔をもって楽しく過ごす事ができる様支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や化粧品の買い物を支援したり、日常的に身だしなみやその方の好むおしゃれを把握して、対応している。又、2か月に1度の出張理美容の際は、前もってどの様な髪型や色したいか等、ご本人のお気持ちや意欲を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しくゆったり食事をする事ができる様、テーブルや座席の配置、ご本人の希望にも配慮し、BGMにも気を配っている。食事の準備から下膳、洗い物等でご希望に沿って、又は職員よりお願いする等している。	職員と一緒に菜園で収穫した野菜の下ごしらえや調理等を行い、時には納涼流しソーメンやスイカ割りなど趣向を凝らした支援をしている。また、食事・水分摂取量を把握し、栄養バランスにも配慮したメニューとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が栄養のバランスを考えたメニュー、食事量や水分摂取量など細かく記録し、それにより、栄養状態、味、食感、食事形態などその方に合った食事を提供できる様、ご家族や関係機関にも相談をし支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実践は勿論の事、協力歯科医院と連携し「お口の健康診断」を行い、口腔内の健康状態を把握した上で口腔ケアを実施している。治療が必要な虫歯や義歯の調整の他、嚥下評価も含めて迅速な対応を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	水分摂取、排泄チェック表により、排泄パターンを把握し、声掛け、見守り、トイレ誘導など、その方に合った支援を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し、水分の他に乳製品やオリゴ糖、食物繊維を積極的に摂って頂く工夫や体操等を取り入れ、便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的な「入浴の日」は決めているが、その方の体調や希望、気分に合わせてなるべく添う事ができる様配慮し、支援を行っている。	入浴拒否の強い本人にも個々に沿った柔軟な支援をしている。また、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時までは、休息も含め自由に過ごして頂き、就寝時に不安などで寝つけない方には、飲み物をお勧めしたり、お話を傾聴し、安心感を持って頂き睡眠に繋ぐことが出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を収集しファイリングしており、職員が確認出来る様になっている。用法等に変更があった場合は、連絡帳などスタッフが目にする媒体を使用し、周知を徹底している。副作用など気になる事は法人内看護師や協力医療機関、薬局(薬剤師)に相談、確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族、関係者の方からご本人の得意、不得意や好き嫌い等の情報を頂き、ホームでの日常の暮らしの様子と照らし合わせ、一人一人の役割りや楽しめる事を見出し、気分転換が図れる様支援を行っている。(畑仕事など)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等、出来るだけ屋外にへと努めている。又、体調等も配慮した上で、玄関先や縁側で椅子に座り日向ぼっこを楽しむ事もある。月に一度の図書館への支援を継続している。	「ふるさと菜園」で野菜作りや収穫を楽しんで職員と一緒に調理や食事を楽しんだり、散歩や買い物、紅葉狩りやドライブ、図書館に出かけるなど戸外に出かけて気分転換や楽しみごとへの支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が出来る利用者様については、ご家族と相談の上で少額を所持して頂き、お金を持つ事の大切さを理解して頂く。買い物時にはご自分で支払を行って頂き、見守り、支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は各ユニット、事務所に設置しており、ご家族等に連絡がしたいとあった際は、支援している。ご家族やご友人からの電話についても、職員が取り次ぎ、お話出来る様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職場内に「環境担当」を配慮し、季節を実感出来るよう、四季折々の季節感あふれるディスプレイ等を行っている。又、利用者で展示会に出品する作品を作り飾っており、次の作品への意欲にも繋がっている。馴染みの空間で居心地良く暮らせるよう工夫をしている。	共用の空間には、季節毎の飾りつけや行事参加の写真の掲示などで、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室においては、利用者同士の関係性を配慮し、自然な形で居場所を誘導する等支援している。独りになりたい時、気の合った利用者様同士がゆっくりと語り合える場所として、廊下に二人掛けソファを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学时や入居が決まった時に、ホームでの必要な物を説明する際、ご本人が使い慣れた物や好みの物を持って来て頂き、馴染みの物で囲まれたなかで、穏やかで、居心地良く暮らして頂ける様お勧めしている。	居室には、馴染みの家具や家電製品等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、トイレなど、ホーム内で必要と思われる所には、手摺や表示板を設置し、又、廊下に障害物となる物は置かず、安全に利用、移動ができる空間づくりを工夫し、自立した生活ができる様配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600367		
法人名	社会福祉法人ふるさと		
事業所名	認知症対応型共同生活介護ふるさと(2階)		
所在地	帯広市西20条南3丁目6番22		
自己評価作成日	2017/02/15	評価結果市町村受理日	平成29年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvogyoCd=0194600367-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、平成27年3月に開設し2年が経ちました。閑静な住宅街に立地し、四季、陽気、ご要望に応じ、散歩やドライブ、買い物、行事への参加、野菜作りなど、利用者の皆様が自然な暮らしの中で、楽しみを持ち、「安全・安心・笑顔」でお暮し頂ける様、また、ご家族の皆様にも同様に感じて頂ければと、スタッフ一同務めております。
 地域の皆様とは、当ホームの多目的ホールや会館にて、福祉やグループホームの役割りなどをお話しする機会が出来たり、当町内子供会の皆さんとのふれあいの場を設けて頂くなど、積極的に取り組んでおります。今後も、地域や関係者の皆様のご協力を頂きながら、進めて参りたいと思っております。
 法人としては、職員の育成、「学び、成長する介護集団」を目指し、法人内外の研修は勿論、他職種の方々ともお話しさせて頂く機会を多くもち、日々、利用者の皆様、ご家族に質の良いケアを提供出来ませす様取り組んでおります。
 毎日、笑顔や笑い声あふれる「ふるさと」であります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれたグループホームを目指し、内部研修において学びを行っている。又、理念を玄関ホールに掲示し、職員のみならず来訪したご家族の目にも触れる様に周知、啓蒙を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会夏祭りのちびっこ神輿は、継続して施設前に来て頂き、子供達と利用者の交流が持てている。花を届けに来て下さる方や、散歩時にはこやかに挨拶を交わす事が出来ている。今後も地域の活動に積極的に参加していきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民を含む団体の方々に、我々の持つ専門性や認知症の理解において講演、地元中学生の職場体験の受け入れを継続している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議全体において文章報告だけでなく、写真なども使い、日常生活を見て感じて頂いている。意見や要望においては全体会議などで報告、検討し、サービスの質向上を目指し取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケア内容の確認や各種報告を通して、その都度連絡をさせて頂き、助言や指導を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケア、利用者の自由な生活を確保できる様取り組んでいる。法人内、外の研修において学び、職員の理解、共有に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内、外の研修において学び、職員間の理解を深めている。特にグレーゾーンにおいて認識を持ち、常に自分自身に問いかける様伝え、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は社会福祉士、ケアマネとしての業務経験が長く、制度の利用経験がある。権利擁護に関する研修を行いたいが、中々実行できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、契約時等の際は、不安や疑問点等を伺い、安心、理解、納得頂ける様努めている。又、契約内容変更時には、文章の発送や説明の機会を設け、対応を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた時や、電話や電子メールを積極的に利用して、利用者様の状況を報告するほか、ご家族からも意見や要望を伺う仕組み作りを行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の打合せや「職員会議・スタッフ全体会議」という会合を通じて、職員の意見や提案を聞く他、現場と事務室の「風通し」を良くして、スタッフが物を言いやすい職場作りを意識している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談を実施し、職員の仕事に関する思いや悩み、不安や要望、受けたい研修などと言った細かい内容についても、確認している。代表者には、管理者から必要な職員個々の情報提供を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人は、研修制度が充実しており、職員のレベルに応じた研修プログラムに基づき、必要な研修を行っている。又、外部研修にも参加し、働きながら多様な知識を得る事が出来る様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他ホームの管理者の方にお越し頂きアドバイスを頂いたり、グループホーム協会に加入し、研修会等に職員が参加し、同業者との交流、学びにてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学、若しくは入居相談時より、馴染みの関係を構築するように努め、入居前より利用者の心のうち出来る限り多く聞きだし、入居後に安心して過ごして頂ける様職員や他の利用者様との関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	前項同様、関係性を構築し、利用者様、ご家族が何を望んでいるのか、出来るだけ「本心」の意向を聞き出せる様に努め、利用開始に向けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に迷っているご家族には、これまでの経験から、身近で具体的な事例で説明したり、状況によっては、在宅でのサービスを提案する等、「入居ありき」ではない、臨機応変な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員が、一緒に出来る事を見つけ、又、自主的にされる事の日々の暮らし(日常生活)の中で、感謝の言葉や挨拶、笑顔において、親密な関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には積極的に施設内の行事(誕生会など)への参加の呼びかけを行っている。ホームでの何気ない仕草や笑顔を写真に撮ってご家族に送信したり、「歌う事が出来た」「こんな冗談を」等、ご家族と共に分かち合える様、細やかに報告し関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ病院、行き付けの美容室、ご家族との外出、外泊、又、面会に感謝し、馴染みの関係が途切れる事のない様、支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格や感情の変化を理解した上で、コミュニケーションがとれるよう仲立ちや声掛け、見守りをし、利用者様同士が関り支え合える関係が持てる様、支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了された利用者のお宅にお花や手紙、又入院された方への面会等を通し、可能な限りご本人、ご家族との関係性を継続できる様努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からお話をお聞きし、モニタリングの中で本人の思い、希望、意向をお伺いし、又、ホームでの関わりを通じ、職員間で情報を共有して、ご本人の思いや意向に添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで、ご本人及びご家族から詳細な情報を得たり、利用していたサービス提供事業所や病院等からも情報を提供して頂き、入居後も引き続き変わらぬ生活が継続できる様な支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活スタイルをベースとして現在の生活スタイル、嗜好、残存能力等をホームにおいて、実際にスタッフが日々関る中で五感を働かせて情報を追加収集し、それを記録や伝達などを通じてスタッフが共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、関係者様とは面会時や受診前後など意向確認や情報交換のを行っている。月に一度カンファレンスを行い、現在のケア内容が適切なものかどうか、現在の情報も職員より収集し話し合い、支援に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の生活状況は、ケア記録に記載し、状態変化の把握や職員間の情報共有に繋がっている。又、気が付いた点があれば、その都度話し合いをもち、プランの見直しやより良いケアの提供に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族と相談を密にしながら、その時々ニーズを把握し、職員が柔軟に適切な支援を行えるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、地域包括支援センター職員、町内会会長、福祉用具職員に就いて頂いている。今後も、町内や地域、各関係機関との交流、又ご支援、ご協力を頂ける様努めていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診については、ご家族に依頼している。必要に応じて、診察室まで同行させて頂き、主治医とホームでの様子や病気に対する適切な対応方法等を確認するなど、関係性を築いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が、週2単位で利用者の体調管理を行っている。症状の確認や体調変動についての報告や相談等を職員と一緒にしている。それ以外にも、電話や電子媒体を利用して連絡を密にし、疾病の早期発見、早期対応・治療に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携は非常に良好。入院時にも積極的に見舞いに出向き、医師や看護師、ご家族と情報交換を行い、ご本人、又、ご家族が安心して治療を受ける事ができる様支援に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	今後、重度化して行く事も考えられる際、早い段階で主治医、ご家族、看護師、ホーム職員で話し合いを持ち、事業所として出来る事、今後の方針を共有し支援を行い、都度報告し、指示等を頂きながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内、外の研修において、心肺蘇生法、AED使用法の講義・演習、緊急時の対応についても学んでいる。今後も、研修へ積極的に参加できる様取り組んでいく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知通報システムについて、全職員が使い方を学んでいる。又、消防の方の協力を得て、避難訓練も行っている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ馴れしい言動とならないように常に人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に十分注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を通してご本人の希望をお聞きしたり、思いを表す事の難しい方においては、ちょっとしたサインも見逃さず対応し、自己決定が出来る様に雰囲気作り等に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その方がどの様に過ごしたいのか、日々の体調面、精神状態等も配慮し、笑顔をもって楽しく過ごす事ができる様支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や化粧品の買い物を支援したり、日常的に身だしなみやその方の好むおしゃれを把握して、対応している。又、2か月に1度の出張理美容の際は、前もってどの様な髪型や色したいか等、ご本人のお気持ちや意欲を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しくゆったり食事をする事ができる様、テーブルや座席の配置、ご本人の希望にも配慮し、BGMにも気を配っている。食事の準備から下膳、洗い物等でご希望に沿って、又は職員よりお願いする等している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が栄養のバランスを考えたメニュー、食事量や水分摂取量など細かく記録し、それにより、栄養状態、味、食感、食事形態などその方に合った食事を提供できる様、ご家族や関係機関にも相談をし支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実践は勿論の事、協力歯科医院と連携し「お口の健康診断」を行い、口腔内の健康状態を把握した上で口腔ケアを実施している。治療が必要な虫歯や義歯の調整の他、嚥下評価も含めて迅速な対応を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	水分摂取、排泄チェック表により、排泄パターンを把握し、声掛け、見守り、トイレ誘導など、その方に合った支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を確認し、水分の他に乳製品やオリゴ糖、食物繊維を積極的に摂って頂く工夫や体操等を取り入れ、便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的な「入浴の日」は決めているが、その方の体調や希望、気分に合わせてなるべく添う事ができる様配慮し、支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時までは、休息も含め自由に過ごして頂き、就寝時に不安などで寝つけない方には、飲み物をお勧めしたり、お話を傾聴し、安心感を持って頂き睡眠に繋ぐことが出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を収集しファイリングしており、職員が確認出来る様になっている。用法等に変更があった場合は、連絡帳などスタッフが目にする媒体を使用し、周知を徹底している。副作用など気になる事は法人内看護師や協力医療機関、薬局(薬剤師)に相談、確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族、関係者の方からご本人の得意、不得意や好き嫌い等の情報を頂き、ホームでの日常の暮らしの様子と照らし合わせ、一人一人の役割りや楽しめる事を見出し、気分転換が図れる様支援を行っている。(畑仕事など)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等、出来るだけ屋外にへと努めている。又、体調等も配慮した上で、玄関先や縁側で椅子に座り日向ぼっこを楽しむ事もある。頻繁に外出希望がある方については、家族の協力を得て外出し、気分転換を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理が出来る利用者様については、ご家族と相談の上で少額を所持して頂き、お金を持つ事の大切さ等を理解して頂く。買い物時には、ご自分で支払を行って頂き、見守り、支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は各ユニット、事務所に設置しており、ご家族などに連絡がしたいとあった際は、支援している。ご家族やご友人からの電話についても、職員が取り次ぎお話し出来る様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職場内に「環境担当」を配慮し、季節を実感出来るよう、四季折々の季節感あふれるディスプレイ等を行っている。又、利用者で展示会に出品する作品を作り飾っており、次の作品への意欲にも繋がっている。馴染みの空間で居心地良く暮らせるよう工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室においては利用者同士の関係性を配慮し、自然な形で居場所を誘導する等支援している。独りになりたい時、気の合った利用者様同士がゆっくりと語り合える場所として、廊下に二人掛けソファを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学時や入居が決まった時に、ホームでの必要な物を説明する際、ご本人が使い慣れた物や好みの物を持って来て頂き、馴染みの物で囲まれたなかで、穏やかで、居心地良く暮らして頂ける様お勧めしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、トイレなど、ホーム内で必要と思われる所には、手摺や表示板を設置し、又、廊下に障害物となる物は置かず、安全に利用、移動ができる空間づくりを工夫し、自立した生活ができる様配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ふるさと

作成日: 平成 29 年 3 月 8 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	8	権利擁護に関する制度の理解の為の研修会の開催ができていない。	権利擁護に関する内部研修会を開催して、職員間で理解を深めていく。	権利擁護の内部研修会を実施する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。